

- ・ 実践発表会を指定した中学校ブロックで行う。
- ・ 27年度の実践発表会の成果と課題を明らかにし、次年度の推進計画を策定する。

#### ○ 平成28年度

- ・ 小中一貫教育「あい紡ぎプラン」による教育の一層の充実を図る。
- ・ 実践発表会を指定した中学校ブロックで行う。
- ・ 他の中学校ブロックの取組を参考にしながら、計画の見直しと方向の確立

#### ○ 平成29年度

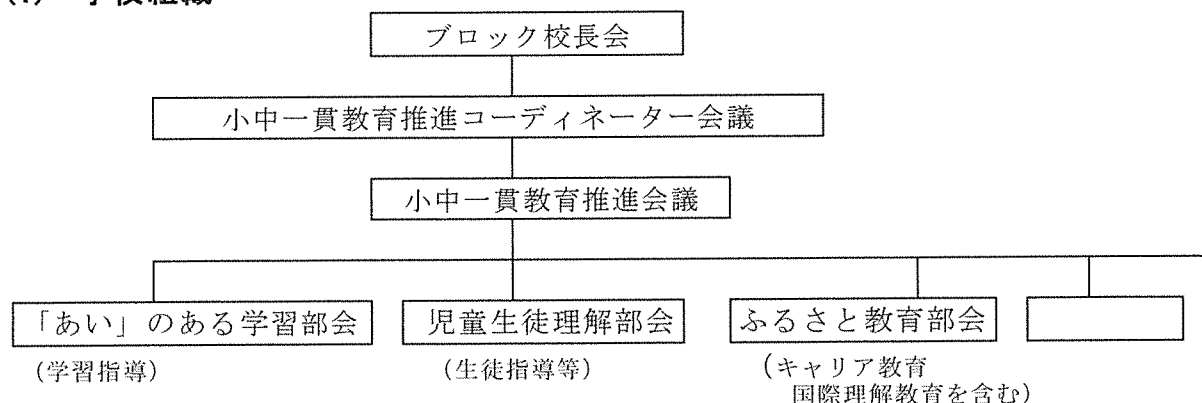
- ・ 中学校ブロックの小中一貫教育の充実と定着

## 8 小中一貫教育推進事例

小中一貫教育の具体化に当たって、今日的な課題解決のための取組の企画・実践が欠かせません。また、その具体的な取組によつてこそ、子ども、保護者、地域社会の皆様が、なるほど、これこそ小中一貫教育だと納得され、安心していただけるわけです。

中学校ブロックごとに、子どもの成長に大きく寄与すると安心していただき、応援していただける取組を創り出していきましょう。その参考例として数点を取り上げてみます。

### (1) 学校組織



### (2) 合同での職員会議・授業研究会

小中一貫校はもちろんであるが、小中一貫教育校においても、それぞれの教職員が同僚であるという意識を強め、同じ方針で教育活動を進めていくことがとても大切である。そのために、計画的に職員会議を合同で開催したい。その企画を中学校ブロックの校長会で進めていくことが必要である。

また、教員の指導力を向上させるため、小中学校でそれぞれに開催している校内授業研究会などを、それぞれの良さを相互に生かした合同の授業研究会として企画・開催する。研究授業については、事前・事後の研究会を位置づけることが大切である。

「綾部市の『あい』のある学習」で小中学校がつながるように意図的な企画を大切にしたい。

### (3) 学習指導の充実

#### ア 前期 (小1～小4)

この時期は、義務教育をスムーズにスタートさせることを大切にしたい時期であ

る。子どもたちの小学校教育に対する期待感を大事にはぐくみ、学習への興味や関心を高めるよう、具体的な操作などを取り入れ、学習を充実させていきたい。

- (ア) スタートカリキュラムを機能させ、スムーズな小学校生活をつくり出す。就学前期の遊びを通しての学びを小学校の学習へとつなぐ学習指導の工夫を行う。
- (イ) 1・2年、2・3年、3・4年のそれぞれの学年間における学習参観や合同学習から学び方を学び、学習基盤の力を育てる。
- (ウ) 保護者の学習参加の機会をつくり、子どもに学ぶことの楽しさを体験させるとともに、保護者には協働して育てるという意識を高める機会とする。
- (エ) 小3・4年での基礎講座の開設など、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

#### イ 中期（小5～中1）

この時期は、小学校高学年の児童に少しずつ中学校生活への構えを持たせ、中学1年生が中学生になりきることができるよう支援する取組を企画していくことが大切である。

その際には、子どもの人間関係の広がりや深まり、中学校校舎や生活への慣れ、中学校教員による授業体験（小5、小6）、教科担任制による中学校システムの理解（慣れ）、小学校教員による指導の継続（中1）、中学生の学びの姿への憧れ（教科学習、合唱、生徒会活動など）などを取り入れていくことを大事にしたい。

- (ア) 一部教科担任制の導入（音楽、図工、家庭、体育、外国語活動など可能な教科等）を工夫する。

教員が移動・・・ 中学校教員が小学校で授業（小5、小6）

児童が移動・・・ 小5、小6の児童が中学校で学習（中学校教員の指導）

（移動の定例化、週1回、月2回、月1回など）

- (イ) 連続した指導を工夫する。

中学校教員による小学生への指導（授業を含む）と小学校教員による中学生への指導（中1の授業を含む）でこの時期の指導をつなぐ。

部活参観・体験の機会を作り、中学校生活に慣れさせる。

- (ウ) 小・小が連携した合同学習（子ども同士の仲間理解、分担指導）に取り組む。
- (エ) 「あこがれの人物」を持たせ、その人の生き方や考え方を参考にしながら、自分の生き方について思いをまとめ、将来への希望を持たせる。
- (オ) 中学1年時を複数担任制にし、担任とのふれあいの時間確保に努め、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への切り替えをスムーズに行えるようにする。

#### ウ 後期（中2～中3）

義務教育9年間のまとめの時期にふさわしい内容を企画し、学力の質を高めたい。

- (ア) 「綾部市の『あい』のある学習」による練りあい学習の充実によって、考える力、コミュニケーションする力を伸ばさせる。
- (イ) 弱点補強講座、得意科目伸長講座の開設など個に応じた指導を工夫する。
- (ウ) 2・3年による合同学習の機会を作る。
- (エ) 個人学習課題の設定による自学自習に取り組む。
- (オ) 高校見学会・説明会への中2からの参加など、早い時期から、卒業後の進路について考えられるようにする。
- (カ) 高等学校との連携による授業体験の機会を作る。